



犬走智英
岡本忠裕

武雄市教育委員

武雄市長
小松政



子育て世代の
若手教育委員と語る！

「組む」で広がる 教育の未来

～未来を担うすべての子どもを主人公に～
昨年10月に発表した教育大綱を読む。



(司会：学校教育課 指導主事 山口信一郎)

シンプルで分かりやすい
新たな教育指針

山口 皆さん、新年あけましておめでとうございます。昨年10月に武雄市教育大綱が発表されましたね。日本一短い「組む」という二文字ですが、皆さんどう思われましたか？

犬走 非常に分かりやすいと思います。学習塾を経営していて、昔とは社会で求められる人材・力が随分変わっ

ていると感じます。公教育も変えていかなければなりません。時代の変化に対応できる力を育てるには、教育を学校だけで完成させず、地域や家庭、民間などが「組」んで応援することが必要です。こういった思いを、一言で説明できる大綱だと感じました。

山口 犬走さんは学習塾を経営されながら、昨年は中学校にも出向いて授業をされていましたね。大変アクティブで面白く、授業方法はもちろん、教育への思い・ひたむきさなど私も教員として学ぶことが多くありました。

「組む」は
行動につながる言葉

岡本 「組む」って強い言葉ですよ。それがいいなど。私は保育園の園長をしながら、子どもの成長は目の前の姿だけでなく、先生たち同士、家庭や地域とのつながりの中でみえるものだと感じています。ただ、つながりはお互いをおもんばかって歩み寄るイメージ。ところが「組む」はより積極的で、ズカズカと入っていかないと組めない。例えば官民一体型学校の推進も、地域・企業の方とつながるというより、「組む」という積極的な姿勢でお